

「頭足類の多様性 (3)」～頭足類の系統樹～

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

軟体動物の中でも、頭足類(綱)は、非常に長寿の系統で、独自の進化をとげてきた。地球上に現れた最も古い頭足類は、古生代のカンブリア紀と言われているが、大元の祖先はよくわかっていない。

ある生物群の進化を理解する為に、視覚的に表現した図が「系統樹」である。頭足類の発生から現在までの系統樹を、正確に描こうとしたら、小さな字で書いても、たぶん体育館の床面ぐらいの面積になるだろう。何しろ、アンモナイト類だけでも数千種類存在したのだから・・・。

私は、小学生でもわかるように、ごく簡単な系統樹を作ってみた。古生代の浅いく暖かい海に出現した、頭足類は、さっそく、進化の枝分かれをする。最初に分岐したのが、オウムガイの仲間だ。実に4億5千万年も前に、独自の進化を始めている。その後枝分かれした、アンモナイトやベレムナイトは、中生代の終わりに、恐竜と一緒に絶滅した。アンモナイトは、新生代の始めまで生き残ったという説もあるが、少なくとも

も現在は、北極海、マリアナ海溝、カスピ海、ムー大陸の浅瀬、ガラパゴス沖、銚子港、竹輪がうまい小松島港、三四郎池、ネッシーのネス湖など、いかにもいそうな場所どこを探しても、1匹もない。

頭足類の主系統は、中生代に分化して、大きくタコ(8本脚)とイカ(10本脚)の道を歩み、現在に至っている。寿司ネタの名脇役は、すでに中生代に確定していたわけだ。

この系統樹で、ひときわ目をひくのが、やはりオウムガイの仲間である。分類上の正確な名称は、オウムガイ亜綱 *Nautiloidea* (ノーチロイデア) である。4億5千万年間、生き延び続けている。その間、地球には、巨大隕石落下、全球凍結、全氷融解、海洋酸素欠乏など、生物にとって、さまざまな大事件があった。その間、一度も絶滅せず、に遺伝子を伝え続け、現在の地球の海に泳いでいるのだ。まさに驚異としか言いようがない。(つづく)

「頭足類の系統樹」 作図 ; C. Tanaka

火星人も頭足類っぽいのが、研究不足で系統が不明。

